

令和6年度 佐 古 小 学 校 総 括 評 価 表

重点課題		自己評価		学校関係者評価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標		評価指数と活動計画		評価		学校関係者の意見	今後の改善方策
基礎学力の定着・向上に努める。	(全校レベル) ①デジタル教科書やタブレットPCなどのICT機器を使用し、学習指導法を創意工夫し、「わかる」授業の実践を行う。 ②進んで問題を解決したり、自分の考えを表現したりする力を育てる。 (下位組織レベル) ①低・中・高・特別支援部会別に各学年等で研究課題に沿った自主研修を行い、それぞれの発達段階に応じた指導方法の確立をめざす。[学習規律班] ②教科等の研究授業・授業公開を積極的に行い、教科等の特性に応じた指導方法の工夫・改善を図る。[授業研究班]	評価指数	評価指数の達成度	総合評定	(所見) 目標の達成度を見てみると、おおむね達成している。しかし、学習中の聞く態度など繰り返し指導しなければならない面も多く、学習習慣の定着に向けた根気強い取り組みを続けていきたい。		
		①計算・漢字問題の正答率が 80 %以上になるようにする。 ②1日に1回以上は、自分の考えを発表する事ができるようにする。	①指標である80%は達成でき基礎的な知識の理解は身についていると言える。しかし、学年があがると個人差が広がり、効果的な個別対応の必要性がある。 ②自分の考えを意思表示することについては、概ね達成された。しかし、自分の思いを表示することが精一杯で、周囲の意見を受けて発表することは十分でない場面も見られた。	A			
		活動計画	活動計画の実施状況	(評定)			
		①学習の繰り返しや定期的なミニテストを実施する。 ②授業の中でそれぞれの考えを表出し、その共通点や相違点をもとに話し合う場を充実させる。	①朝の活動の時間に、スキルアップの時間を設け、各クラスで実施した。 ②学年等で行われる授業研究で、友達の発言をよく聞いて「つながる話し合い」を意図した授業を数多く実施することができた。			○子どもたちに学力をつけることは、学校の大きな使命である。様々な教育活動がある中で、授業を充実させわかる喜びを与えてもらえるように、これからも指導の充実をお願いしたい。 ○集会活動や運動会・授業参観などを参観して、子どもたちの表現力のすばらしさを強く感じた。これからも充実した活動の展開を期待している。 ○学校と家庭が連携し、子どもたちの学習習慣の確立に努めてほしい。学習することの楽しさを保護者共々、学校が発信源となって伝えてほしい。	○全国学力・学習状況調査の結果から見ても達成されていると評価できる。しかし、学力の二極化も見られ、個別指導を工夫し少人数指導を充実させることで、児童一人一人のニーズに合わせた丁寧な取り組みを更に継続していきたい。 ○表現力や問題解決能力の充実を意図した授業展開をより充実させるための研修の充実を推進する。
豊かな心を育てる。	①思いやりの心をもって人や物に接することのできる態度を育成する。	評価指標	評価指数の達成度	(評定)	(所見) 明るい歌声や心に響く音楽の流れる学校づくりを通して、協力するすばらしさを体得している。日常生活においても友達や周りの人に優しい気持ちでよりそのことのできる態度を育てていきたい。	○コロナ禍もあつてか、児童のあいさつに対する積極性が低下しているように感じる。これからは、より一層あいさつの輪を広げ、日々お世話になっている方々へ感謝の気持ちが伝えられる子どもになってほしい。 ○学校・保護者・地域が一体となって子どもたちを育てているという意識をこれからももっと強く持つようにしたい。「愛日ふれあい広場」などのPTAや地域が繋がる行事の機会をとらえ、子どもたちのためにできることを学校とともに探っていきたい。	○あいさつができる子どもを育てるためには、まず教職員がそれを推進する必要がある。教職員が率先垂範し、積極的にあいさつを子どもたちと交わすとともに、子どもたちのあいさつする姿を認め賞賛し、あいさつを強化していく。 ○思いやりの心をもって接する態度の育成に継続して取り組み、互いのよさを認め会える学級づくりを中心に「いじめ」のない学校づくりの推進を図る。
		①自分から進んであいさつをする。 ②朝の会や帰りの会で今月の歌等を歌い、友達と共に表現する喜びを味わう。 ③話す人の方を向いてうなずきながら話を聞く。	①教師や立哨指導の保護者に対し、自分から進んであいさつのできる子どもがかなり増加した。 ②朝・帰りの会で今月の歌をリズムに乗って身体を揺らしながら楽しく歌い、互いの心を通わせあうことができた。 ③話す人の方を向いて聞くことは、おおむね達成されている。しかしながら、うなずきながら話を聞くまでは、達成されていない。	A			
		活動計画	活動計画の実施状況	(評定)			
		①「あいさつ運動」の輪を広げて推進する。 ②仲間づくりを大切にし、スマイルタイム（音楽集会）や愛日タイム（異年齢集団活動）等の集団活動を充実させる。 ③互いの考えや存在を認め合う場を設定し、重視する。 ④明るい歌声や心に響く音楽の流れる学校づくりを推進する。	①朝・帰り・授業の前後等に、しっかりあいさつするよう指導している。また、なかよし委員会が中心になって「朝のあいさつ運動」を行っている。 ②スマイルタイムは月に1回、愛日タイムは月2回のペースで行っている。 ③授業や朝・帰りの会で、「意見を聞く・発表する指導を毎日行っている。 ④全校で「今月の歌」を設定し、音楽の時間だけでなく、朝・帰りの会で毎日歌っている。				
体力の向上を図る。	①健康や安全に対する意識の高揚を図り、強くたくましい子どもを育成する。	評価指標	評価指数の達成度	(評定)	(所見) 朝の運動教室のメンバーがリーダーとなって、休み時間の外遊びや校外の体育行事の参加に積極的に取り組むことができた。	○車で学校まで送ってくる保護者も見られる。学校と家庭との連携が必要であることを強く感じる。 ○地域の安全パトロールをこれからも実施し、不審者対策を進めていく。登下校時の道路の安全な通り方についても地域もさらに声かけをしていきたい。震災への対応も含め、安全教育に対して地域と学校が一体となって防災意識の高揚を図っていきたい。	○高学年を中心に校外体育行事への積極的な参加を推進する。 ○休み時間に進んで外遊びを行ったり、朝の運動教室に参加したりするように担任等が積極的に声かけを行う。また、休み時間には積極的に教師も児童とともに遊ぶようにする。
		①新体力テストの総合評価で C 判定以上の割合を 80 %に向上させる。 ②体育の授業に関するアンケートで「とても楽しい・楽しい」と感じる児童の割合を 95 %以上にする。	①昨年度同様に5・6学年男女ともにC判定以上のものが目標の割合以上を占めた。 ②体育授業が楽しいと感じる子どもたちの割合は、95 %以上を占めている。ただし、領域によっては偏りがある。	B			
		活動計画	活動計画の実施状況	(評定)			
		①体力・運動能力を向上させる。 ②健康・安全に関する教育を充実させる。	①单元ごとに自分の力をはかり、体育学習の充実を図っている。また、「愛日タイム」を充実させることで、運動の生活化を推し進めている。 ②食育全体計画に基づいて、食についての指導を行った。安全指導に関しては、年間計画を見直ししながら、事故防止に努めるようにした。				